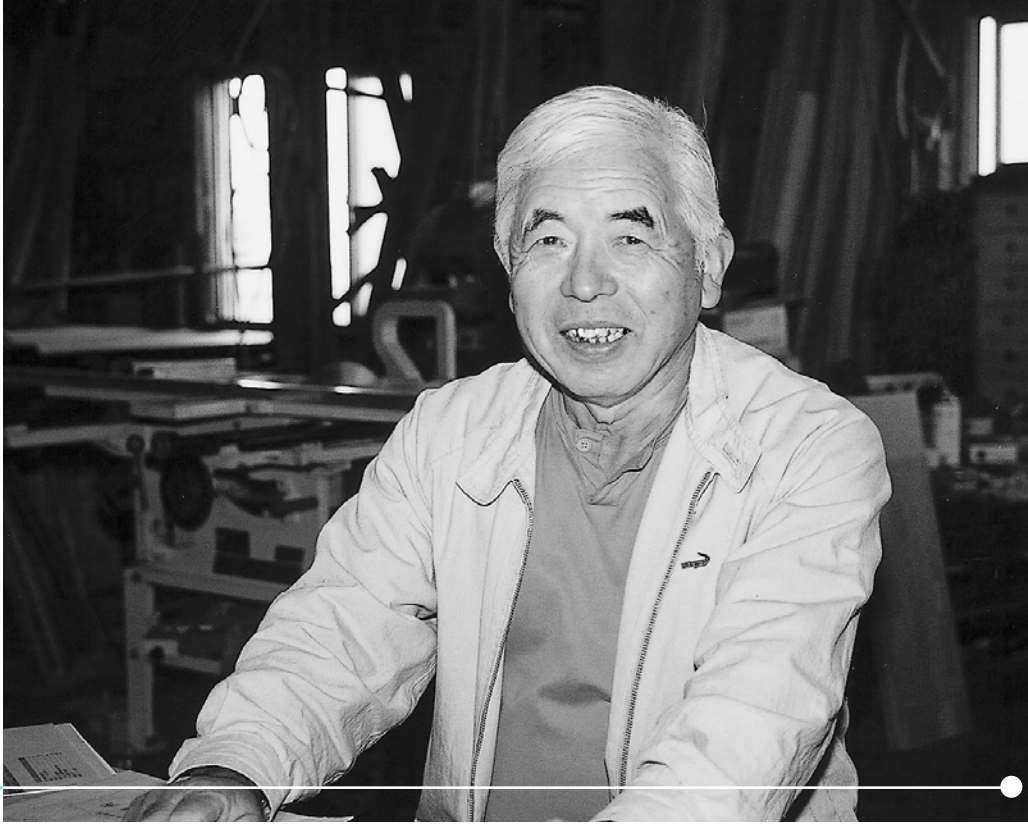


～絶えず喜ばれる製品作りを目指して～



前田建具製作所
社長 前田 正明さん



今月の夢追い人は、全国建具展で二年連続入賞を果たされた、前田建具の前田正明さん。前田さんは一級技能士の資格を持つ。昨年は国土交通大臣賞を受賞した。曲線面が美しい作品だ。今年は、すっきりとした組子を使った感性溢れる作品で、神奈川県知事賞を受けている。

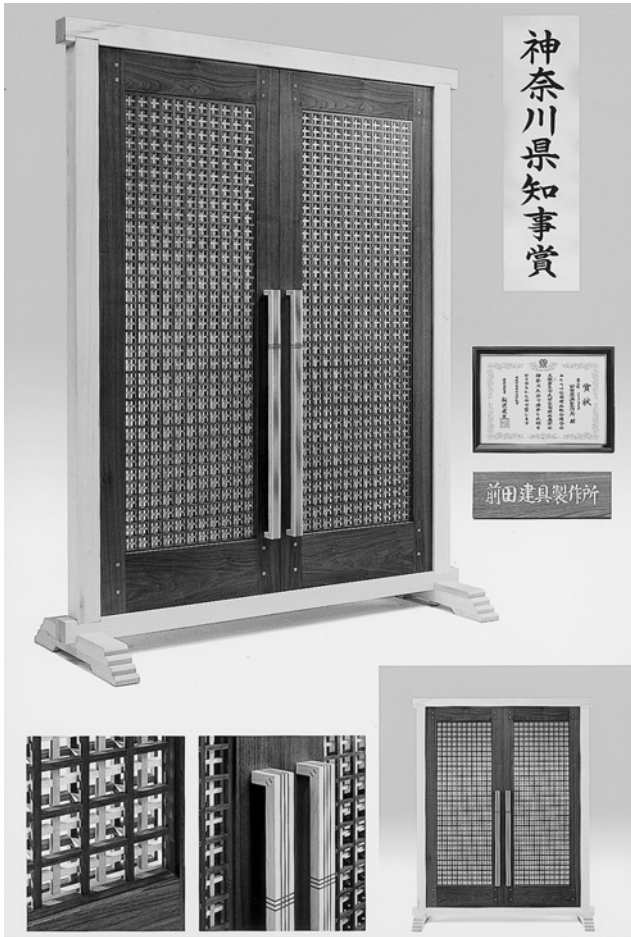
入賞した建具は、いずれも複雑に込み入った組子を駆使するのでない。むしろ、一般家庭ですぐにでも使いたいと思わせる、すっきりした現代風の感覚が特長である。それでいて高い技術を備えている。こうした点が審査員の評価につながっているように思う。もっとも前田さん自身は、「いや〜。まぐれが続いただけですよ。」と謙遜される。

前田建具製作所のこうした個性はどのようにして育まれてきたのだろうか。

前田さんはこう言う。「うちの場合、店舗を持ちません。すべて現場主義です。設置場所にふさわしい建具を作り上げていきます。その際設計事務所、工務店、またお客さん自身の要望をよく聞くようにしています。そして要望に応じるよう努めます。その場でスケッチとして、形状、デザインなど提案をすることもよくあります。」

絶えず、現場に入っ生（なま）の声を聞いていることが、すぐにも家に備えたいと思わせる建具づくりの感覚に生かされているようだ。

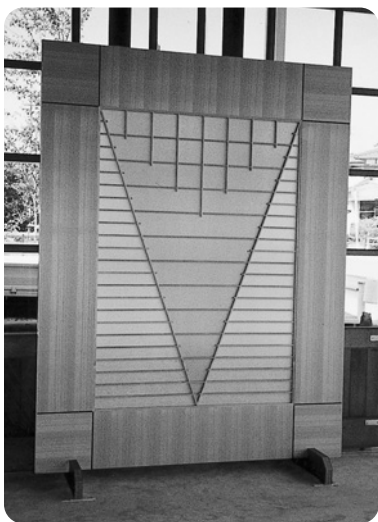
確かに時には、「応じるのが



すぐにでも使いたいと思わせる、
すっきりした現代風の感覚が特長



顧客のリクエストに誠実に
応えようとする姿勢は、顧客
の信頼も勝ち
得てきたよう
だ。得意先の
設計事務所は、
長崎、諫早、島
原など西九州
方面が中心だ
そうだが、そ
の多くは数十
年という長い



伝統的な建具技術と新しい
感覚を併せもつ、製品作りに
今後も期待したい。

難しく思える要望」がくるこ
ともあるそうだ。しかし、それ
も技術の向上に役立った。「本
当にいろいろな対応が必要で
す。それまで経験のないこと
に取り組むこともあります。
確かに挑戦となる場合もあり
ますが、真摯に受け止め対応
するよう努力してきましたつも
りです。」

つきあいである。信頼関係で
結ばれている。さらにそれら
の事務所から推薦や口コミに
よるネットワークで仕事が入
ることが多いという。

二年連続入賞には、現場か
らの要望に幅広く応えようと
して磨かれてきた技術や感性
がある。

今後の夢は何だろうか。
前田さんには、三十七歳に
なる息子さんがいる。息子さ
んも仕事に関わっており、父
親と違いパソコンでデザイン
する。「今後も息子共々、絶え
ず喜ばれる製品作りを目標に
励みたいと思います。お客様
に感銘を与えるような製品を
作り続けていけたらと思いま
すね。」